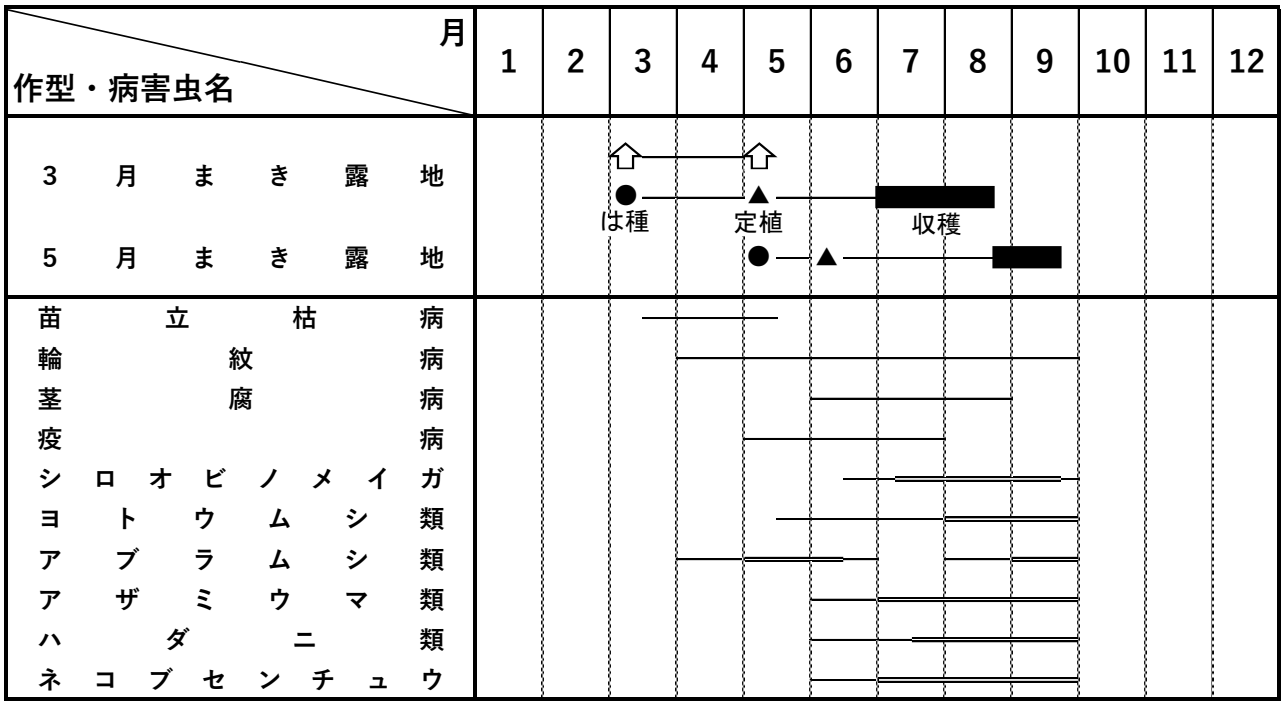
けいとう



苗立枯病

留意事項

1 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。

2 ホーマイ水和剤の成分チウラムの総使用回数は、1回。

防除方法

1 連作地での育苗を避ける。

2 多湿を避ける。発芽後は、風通しをよくして徒長を防ぐ。

3 土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒　参照）

・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 一

【花き類・観葉植物　苗立枯病（リゾクトニア菌）　20～30kg／10a
は種または植付前／1回】

4 は種前の種子に下記の薬剤を処理する。

・ホーマイ水和剤 Ｍ３ １

【種子重量の1.0%　種子粉衣　は種前／1回】または
【200倍　30分間種子浸漬　は種前／1回】

5 発生前に下記の薬剤を散布する。

・オーソサイド水和剤80 Ｍ４

【花き類・観葉植物（除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ）　600倍　－／8回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

輪紋病

防除方法

1 切花栽培の場合、連作を避ける。
2 被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
3 排水、通風、日当たりを良好にする。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トップジンM水和剤 1 【1500～2000倍　－／5回】

茎腐病

防除方法

1 切花栽培の場合、連作を避ける。
2 未分解有機物の投入は本菌の増殖を促進するので、避ける。
3 土壌水分が多いときに発病が多くなるので、排水を良好にする。
4 切花栽培の場合、多発ほ場では土壌消毒を行う。（ＸⅢ土壌消毒　参照）
・キルパー －【花き類・観葉植物　茎腐病（リゾクトニア菌）
原液として60L／10a　は種又は定植の15日前まで／1回】
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・オーソサイド水和剤80 Ｍ４
【花き類・観葉植物（除ばら、りんどう、せんにちこう、コスモス、ひまわり、シネラリア、スイトピー、みやこわすれ、アンスリウム、斑入りアマドコロ）600倍　－／8回】
6 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。
・トップジンM水和剤 1 【1500～2000倍　－／5回】
・リゾレックス水和剤 １４
【花き類・観葉植物　500～1000倍　土壌かん注　3L／㎡　生育期／5回】

疫病

留意事項

1 QoI剤（１１）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 切花栽培の場合、連作地での育苗を避ける。
2 被害株は、株元の土とともにほ場外へ持ち出し処分する。
3 排水、通風、日当たりを良好にする。
4 切花栽培の場合、土の跳ね上がり防止のために、わらまたはポリフィルムでマルチングを行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 花苗・鉢栽培の場合、下記の薬剤を施用する。

・ユニフォーム粒剤 １１ ４
【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培、除きく)
土壌1L当たり0.25～0.5g　土壌混和　鉢上げ時／3回】

・オラクル顆粒水和剤 ２１
【花き類・観葉植物(ポット・プランター等の容器栽培)　2000倍　土壌かん注
ポット使用土壌約1L当り100mL　鉢上げ時又は鉢替え時又は生育期／3回】

シロオビノメイガ

防除方法

1 ほ場周辺の除草を行う。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・カスケード乳剤 １５【2000倍　発生初期／3回】

・ノーモルト乳剤 １５【2000倍　発生初期／2回】

ヨトウムシ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アファーム乳剤 ６【花き類・観葉植物　1000倍　発生初期／5回】

・プレオフロアブル ＵＮ
【花き類・観葉植物　ハスモンヨトウ　1000倍　発生初期／4回】

・フェニックス顆粒水和剤 ２８
【花き類・観葉植物(除きく、りんどう)　ハスモンヨトウ
2000倍　発生初期／4回】

・コテツフロアブル 劇 １３
【花き類・観葉植物(除きく、ストック)　2000倍　発生初期／2回】

アブラムシ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 施設栽培では、開口部を0.8mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
2 ほ場内外の雑草を除去する。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ４Ａ
【花き類・観葉植物(除きく)　2000～3000倍　発生初期／5回】
・アディオン乳剤 ３Ａ
【花き類・観葉植物(除はぼたん)　2000～4000倍　発生初期／6回】
・コルト顆粒水和剤 ９Ｂ
【花き類・観葉植物(除チューリップ)　4000倍　発生初期／4回】
・ジェイエース水溶剤 １Ｂ
【花き類・観葉植物(除ばら、きく)　1000倍　発生初期／5回】

4 ハウスでは、くん煙剤の使用も有効である。(Ⅻ省力安全防除　1くん煙　参照)

アザミウマ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 施設栽培では、開口部を0.4mm目合いのネット(赤色ネットは0.8mmも可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
2 ほ場内外の除草を行う。
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ディアナSC ５
【花き類・観葉植物(除りんどう)　2500～5000倍　発生初期／2回】
・アファーム乳剤 ６【花き類・観葉植物　2000倍　発生初期／5回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ４Ａ
【花き類・観葉植物(除ストック、りんどう)　2000倍　発生初期／5回】
・ジェイエース水溶剤 １Ｂ
【花き類・観葉植物(除ばら、きく)　1000倍　発生初期／5回】

ハダニ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
2 ナミハダニは薬剤抵抗性が生じており、効果の劣る薬剤も出てきているため、薬剤

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

選択は特に注意する。

3 コテツフロアブルは府内のけいとうで薬害の報告があるため、注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ダニオーテフロアブル ３３【花き類・観葉植物　2000倍　発生初期／2回】

・カネマイトフロアブル ２０Ｂ

【花き類・観葉植物(除ばら、きく、カーネーション、デルフィニウム)

1000倍　－／1回】

・バロックフロアブル １０Ｂ【花き類・観葉植物　2000倍　発生初期／1回】

・ダニトロンフロアブル ２１Ａ【花き類・観葉植物　1000～2000倍　発生初期／1回】

・コテツフロアブル 劇 １３

【花き類・観葉植物(除きく、ストック) 2000倍　発生初期／2回】

ネコブセンチュウ

防除方法

1 連作を避ける。

2 土壌消毒を行う。(ＸⅢ　土壌消毒　参照)

3 下記の薬剤を施用する。

・ネマキック粒剤 １Ｂ

【花き類・観葉植物(除きく)　20kg／10a　全面土壌混和

植付前又は定植前／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。